

激戦地で平和訴え

糸満・喜屋武青年会

慰霊の日に初めて披露した奉納エイサー＝平和の広場



小堀端会長の思い実現



「糸満から平和の気持ちを発信したい」と語る小堀端和紀さん＝23日、ひめゆり平和祈念資料館

【糸満】糸満市の喜屋武青年会は23日の慰霊の日の式典後、同市摩文仁の平和祈念公園内にある平和の広場と同市伊原のひめゆりの塔前でエイサーを奉納した。15、24

歳の若者たち約25人を率いた会長の小堀端和紀さん(23)＝同市喜屋武Ⅱには「若い世代が、ここ糸満から平和の気持ちを伝えな」といけないという強い思いがあった。

かった」と語った。

公園の管理者へ相談すると、当初、別の場所での演舞を打診された。しかし、多くの戦没者が祭られている礎前にある平和の広場にこだわった。「戦没者がエイサーを見られる、あの場所じゃないと披露したくなかった」と強く願い、管理者が受け入れた。

喜屋武青年会が、慰霊の日に平和祈念公園・平和の広場で奉納エイサーを披露するのは初めて。小堀端さんは「本来のエイサーは、み霊を供養する念仏踊り。慰霊の日に本来の意味のエイサーを見せた

記憶

次代へ

戦後67年

慰霊の日、エイサー初奉納

戦争体験者が高齢化していく中で、若い世代への記憶の継承が課題となっている。小堀端さんは「若い世代は、慰霊の日がどういう意味か分からずに迎えている」と話す。その上で「沖縄戦の激戦地だった糸満や喜屋武の代表として、自分たちから戦争の悲惨さや地域の伝統を伝えていきたい」と力を込めた。

青年会は同日夕、夕日が沈みかける中、黙とうをささげ、エイサーを披露した。ひめゆりの塔前に、ほとんど人はおらず、冥福を祈りながら粛々と踊った。

(2012年6月29日 27面)

☆エイサーは本来、何の目的で踊られるのだろうか？

☆喜屋武青年会会長を務める小堀端和紀さんは、どういう理由で時間と場所にこだわり、奉納エイサーを披露したのだろうか？ 文中から読み取ってみよう。

年 組 名前